

特色ある園経営

原口 純子

はじめに

昨今、年度当初の県の教育方針指導説明会に出席してみると、「特色ある園経営」とか、「創意ある園経営」が強く求められています。

急速な社会の変貌と価値観の多様化の中で、幼稚園の経営が、旧態依然としてはいないだろうか。いつまでも、折り紙保育にたよったり、空き箱や廃材

のありきたりの、粗雑な環境で、充実感のない鈍感な保育を平気で続けているような実態はないだろうか、との反省に立っているのかもしれない。

教育要領が変わって、環境を通して行う遊びを中心にした保育がなされるようになって、どの園ものっぺらぼうのように特色がなくなり、同じようになっってしまったのはなぜなのでしょう。

一つには、幼児の興味や好きなものを遊びのペー

スに取り入れることから、誰もが共通のイメージを持てるテレビのアニメーションの影響は大きく、全国津々浦々どの園に行っても、同じような格好をし、同じような遊びが展開されるということが考えられます。

しかし、いかにテレビの影響が大きいといっても、それを園として、どのように考えるかは、園の姿勢であり、方針とかわわってくることで、幼児がセーラームーンが好きだからCDを買って振り付けを考えて一緒に踊るか、幼児はそれを好んでいるけれども、園としては異なる音楽を選ぶかは園の主体性にかかわることです。

保育雑誌の役割もそれなりに大きいものはありますが、あまりに素直にアイデアをそのままに、受け入れてしまう等もあるかもしれません。

どの園も似たような遊び、同じような環境の設定、特色のない園経営は、「幼児をこう育てたい」

とか「このような生活や経験を持たせたい」という保育理念や、保育イメージの希薄さによるのかもされません。

公立幼稚園離れ

私の幼稚園のある地域には公立私立の様々な特色のある幼児教育施設があります。例えば、天気さえよければバスで市内の様々な公園に出かけ、野外遊びを中心にした保育施設、モンテソリーの保育をする教室、行儀や文字指導、長時間保育、送迎バスを特色とする園などです。

かつて、市が村であった昭和五十年代は学区の就園該当年齢の六、七十パーセント以上が公立の幼稚園に入っていたのですが、さまざまな幼児教育施設ができて、現在の園は四十五パーセント程度に落ちています。母親の就労など社会的変化で、保育所が伸びていることや三歳児保育のある私立に流れてい

ることもありますが、公立の園経営も問われていま
す。

日本経済が高度成長をとげている時代は、バス、
給食、長時間保育が幼稚園の三種の神器といわれ、
忙しく働く母親に便利な条件を持つことが、幼稚園
経営の要とされました。しかし、バブルははじけ、
子どもの数が減って、女性の生き方についての、価
値観の変化などにより、ただ安くて便利では満足せ
ず、より個性的な我が子の教育への思いいれが感じ
られます。

事実、特色のあるA園は、独自の主張のある幼児
教育施設です。給食もなく、辺りな場所にあるにも
かかわらず、送迎バスもありません。その上親がヘ
ルパーとして保育に参加することが求められている
ようなところでは、けれども教育の主旨に賛同すれ
ば、遠くても、お金がかかっても、親が良いと思う
教育をうけさせたい、ということがわかります。我

が子の教育にかける親の気持ち、が伝わります。

特色ある幼稚園とは

幼稚園における特色にはどのようなものがあるで
しょうか。

1 施設設備に特長をもつ

- ・ アスレチックや大型の園庭遊具がある
- ・ ヤギやウサギなどの飼育動物がいる
- ・ 園舎がオーブンスペースになっている
- ・ 園庭に林や小山や流れがある
- ・ 温水プールの設備をもっている
- ・ 花壇や畑を大切に、栽培を行っている

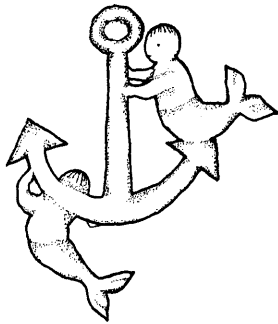
2 保育の考えかたに特長をもつ

- ・ 遊びを中心に環境を通して行う保育をしている
- ・ 特色ある教育思想を基盤にしている（モンテッ
ソリー、シュタイナー等）
- ・ 野外遊びを中心に自然体験を重視している

- ・創立の基盤が宗教である（教会、お寺）
 - ・障害を持つ幼児との統合保育を行っている
 - ・独特のリズム遊びや絵画の指導をしている
 - ・文字や数のワークを重視している
 - ・鼓笛隊の指導に力を入れている
- 3 経営の重点を親の希望に添わせている
- ・長時間保育、給食、バスを運行している
 - ・小学校受験に合わせた指導をしている
 - ・制服に特に力を入れ、かわいらしくしている
 - ・運動会や発表会を公園や大きな施設で行っている
- 4 地域社会やPTA活動の特色
- ・卒業生を中心に地域社会に後援会組織をもつ
 - ・PTA活動や家庭教育学級の運営に特色がある
- 5 その他

幼児教育に沢山の選択肢があり、親が我が子にふ

さわしい教育の場を選べることは望ましいことな
だと思いますが、沢山の選択肢があることはまた、
親を悩ませることもなり、幼稚園の入園願書を出
す季節に「幼稚園一〇番」が開設され、幼稚園に
ついての様々な疑問や相談にのっています。（平成
七年十月八日朝日新聞）



園の特色が経営のためではなく、真に幼児のためであることを願ってやみません。

公立幼稚園における特色ある経営とは

私立の幼児教育施設は、それぞれの考え方によって特色ある独自の方針を出し、施設設備を整えて、それに賛同する人が入園します。それでは、公立幼稚園における特色ある園経営とは何でしょうか。

公立幼稚園の特色は経費が税金で賄われており、片寄りのない公教育を行うところにあります。即ち文部省の示す学校教育法や幼稚園教育要領にのっとった教育です。この遊びを中心にした、環境を通して行う教育が成果をあげ、一人一人の幼児が、個性豊かに、年齢にふさわしい成長を支えることができます。それこそが、公立幼稚園の特色なのです。

経営のために妥協することなく、本来の幼児教育のあるべき姿を追い求めることができるのです。し

かし、それでは何故、公立離れが起きるのでしょうか。公立が安くても、給食があっても、送迎バスもあるにもかかわらず尚、遠くの私立を求めて行くのはなぜでしょう。公立の幼稚園の教育内容や運営に魅力を感じないからに他なりません。

環境を通して行う教育で幼児はちゃんと育っているでしょうか。幼児教育のむずかしさはその評価の困難さにもあります。算数の一桁の足し算が理解できたかは、テストで理解度を知ることがある程度できます。しかし、幼児の心の成長を計るスケールはないのです。勢い、「のびのび」とか「生き生き」とか、「幼児の輪郭がスッキリしている」とか、「ちゃんと」などというあいまいな感覚的なとらえかたで物事がすすめられていくことになるのです。従って、園はちゃんと成長していると思っていなくても、保護者にはちゃんと育っているとは思えないということにもなるのです。

教育要領は明日の日本を担う子どもを育てるのにふさわしいものですが、大綱が決まっているだけで、具体的にどういう内容を持たせるかは現場にまかされています。もとよりそれはとても大切な事であり、ありがたいことなのですが、個々の現場がその重責を果たしているかどうかは問題はあるのです。

教材研究の大切さ

環境を通して行う教育という時、教師こそ最大の環境であるといくら強調しても、日本人の「環境」という言葉についての感覚は物的、静的なイメージを持ちがちです。幼稚園で言えば、ブランコ、砂場、積み木、ままごとコーナーなどです。物が目立って幼児の影が薄い感じがします。意味合いは違っているかもしれませんが、昔言われた「自由保育」という言葉には、いかにも幼児が好きな遊びを

好きな場所で、ワイワイと遊んでいる感じがあったように思います。

環境を通して行う教育は、物に保育をまかせて、教師が見回りをしているようなイメージがなかなかぬぐえないのです。乏しい環境では栄養が悪くて十分育たないことは自明のことです。この栄養不足が「環境を通して行う教育」の園に蔓延しているのではないのでしょうか。

一般に公立の幼稚園は教育課程も指導計画も表紙のついた立派なものが各園にできているのです。これが全うに運営されていれば、幼児はすくすく成長して、「明るい子ども」や「思いやりのある子ども」や「意欲ある子ども」



も」などが小学校に入學することになってくるのですが現実にはどうでしょうか。

成長を保証できる保育の内容が必要なのです。そのためには、今こそ決め細かな教材研究が必要であると思います。物を作る経験で言えば、漠然と物（例えばおりがみや空き箱廃材等）を投げ掛けるというのではなく、経験させたい内容に合わせて、きめ細かな教材の準備をすることです。

言葉の経験を充実させるには、行き当たりばったりの紙芝居やマンネリ化した手遊び等をなんの意図もなく繰り返すのではなく、二年間を見通して、四歳の一学期にどのような言葉の経験をさせるかについての教材の研究と準備が欲しいのです。それらが、時に応じて場にふさわしく言葉遊びやわらべうたとして活用できれば、幼児の言語経験は豊かなものとなりましょう。

成長に必要な、確かな経験をもてる環境を整える

ことにより、その幼児なりに経験できるようにすることです。

それには園長や主任のリードと保育者の保育への情熱が必要なのです。園内研修や外部の講習会への参加、教材を日々準備できる時間が必要です。

創意ある園経営

今日私たちがめざす教育は、文字が書けるようになるとか、〇〇ができるようになるというものではありません。目に見えない心の経験を通して、いわゆる心情、意欲、態度の成長を願っているのです。

この保育の意味を保護者に伝えるために、園長講話や園だより、クラスだよりの発行、保育参観、懇談等を行います。が、保護者にとって大切なのは、我が子の日々であり、我が子の心情、意欲、態度が成長しているという実感なのです。

〇幼稚園の園長先生は保育者が日々の生活の中

で、その幼児の成長の感じられたエピソードの一言メモを保護者に渡すことにしました。毎月どの幼児にも行きわたるように注意をはらいます。例えば

「今日、M子さんが、泣いていたY子さんにどうしたのと声をかけて自分のハンカチをさしだしてしました」というようなものです。生活の中に消えてしまふあぶくのようなエピソードもすくい上げて日差しにあてれば、それは母親にも幼児にもダイヤモンドの輝きをもつものとなりましょう。「牛乳が初めて飲みました」「砂場でA君と友達になって一日一緒にすごしました」など、どんなに些細なことでも、母親にとって我が子の成長こそなによりの喜びであり、願ってやまないものです。

筆者は幼児の成長エピソードを学期毎に写真と共にカードにして保護者に渡していましたが、体裁は整わなくてもリアルタイムで伝えられる日々のメモ方式の方が良いように思います。

むすび

創意ある園経営も、特色ある園経営も、珍しい施設や借り物の保育思想などを持ち込むことではないと思います。それは、ひとりひとりの幼児が豊かな経験と確かな成長を上げられるようにとの思いを思考の軸に置くというごくありふれたことになりました。教育課程の組みかた、保育室のおもちゃの選定や設備、園庭をどう使うか、家庭との連携として、幼児の成長の姿を父母にどのように伝えるか、様々な行事のもちかたなど、どれ一つを取っても改善の余地のあるものばかりです。そして何より、クラスを持つ保育者が確かな保育力をもてるように、園として努力することが大切なことと思います。

(茨城県公立幼稚園)